

妻籠宿

つまごしゆく

町並み保存運動

明治になり鉄道や道路が新たに造られ、宿場としての機能を失った妻籠宿は衰退の一途をたどり、やがて昭和四十年代になり集落保存と景観が修復され、妻籠宿の町並みが見直されました。妻籠の人たちは町並みを守るために家や土地を「売らない・貸さない・壊さない」を中心とする住民憲章をつくり、ここで生活しながら、江戸時代の町並みという貴重な財産を後世に伝えています。

寺下の町並み

日本で最初に宿場保存事業が行われた寺下地区は、妻籠宿保存の原点とも言うべき町並みです。

光徳寺 こうとくじ

石垣を築き、白壁をめくられた気品ある寺で、明応9年(1500年)に開山されたとされています。



石仏「寒山拾得」像

延命地蔵

文化10年(1813年)、光徳寺住職・中外和尚が、地蔵尊像の浮かび上がっている岩を蘭川(あらさがわ)から運んできて安置したものです。

石仏「寒山拾得」像

国内唯一とされる、石仏「寒山拾得」像。双体像は他に類例がない。



妻籠宿本陣 (南木曾町博物館)

妻籠宿本陣には島崎氏が任命され、明治に至るまで本陣、庄屋を兼ね務めました。島崎藤村の母の生家で、次兄広助が養子にきています。平成7年4月に復原されました。

長野県天然記念物 ぎんもくせい

神官・矢崎氏の庭木として、代々愛育されてきた巨木です。

和智塾神社

旧妻籠小

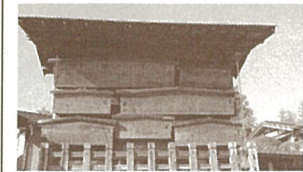
観光案内所 (公財)妻籠を愛する会
コインロッカー

上嵯峨屋

昭和44年の解体復元によって18世紀中期の木賃宿(きちんやど)であることがわかりました。

高札場 こうさつば

今日でいう「官報掲示板」で、幕府が庶民に対し、禁制や法度等を示したものです。



くちどめばんしよあと 口留番所跡

17世紀半ばまで関所が置かれていました。

鯉岩 こいいわ

大きな鯉の形をした岩で中山道三名石の1つでしたが、明治24年の濃尾大地震で、形が変ってしまいました。

熊谷家住宅

19世紀初頭に建てられた長屋の一部。左右の半分ずつが一軒の家として使用されていました。

至南木曾駅 (三留野宿)

(徒歩約15分)

妻籠城址

国道19号

木曾川



日本文学史に大きな業績を残した文学者
しまぎとうそん
島崎藤村

浪漫派詩人として『若菜集』などを刊行。さらに小説家として、『破戒』『春』などで代表的な自然主義作家となった。ほかに、日本自然主義文学の到達点とされる『家』、父をモデルとした歴史小説『夜明け前』など。

つまごしゆくあんないにん 妻籠宿案内人

【ガイド料】案内人1人につき1,500円

◆お問い合わせのうえ御利用ください。
【申し込み先】
(公財)妻籠を愛する会内、妻籠宿案内人の会
Tel、Fax. 0264(57)3513

※原則として
10日前まで
お申し込み下さい。

妻籠の町並みを
説明・案内いたします

わきほんしんおくや 脇本陣奥谷

代々脇本陣・問屋を務めた家で、現在の建物は明治10年に建て替えたものです。また、島崎藤村の初恋の相手「ゆふ」さんの嫁ぎ先でもあります。国の「重要文化財」に指定されています。歴史資料館では、南木曾町や木曾路の歴史、町並み保存運動、全国の町並みなどの資料を模型や映像を用いて分かりやすく展示しています。

当時の建築の粋を感じさせる
脇本陣奥谷内



南木曾町博物館

TEL. 0264-57-3322

【妻籠宿本陣】
大人・300円 小人・150円
【脇本陣奥谷・歴史資料館】
大人・600円 小人・300円

【共通券】 大人・700円 小人・350円

開館時間/9:00~17:00(16:45入館制限)
休館日/年末年始(12/29~1/1)

下嵯峨屋 しもさがや

当初、長屋であったものです。妻籠宿における庶民の住居を代表する形式をとどめています。

ゆうびんしりょうかん 郵便史料館 (妻籠郵便局に併設)

島崎藤村「夜明け前」にも開局当時の様子が描かれています。
【土・日・祝休館】



「ポスト」
ここから郵便物が
送れます

上へ

第3駐車場

藤原家住宅

17世紀半ばの古い建築で長野県宝に指定されています。



石柱道標

妻籠は、中山道と飯田街道の分岐点として栄えた所で、この碑は明治14年(1881年)に、飯田・近江・地元の商人によって建てられたものです。



至馬籠峠・男滝女滝

大妻籠

下へ

至馬籠宿

凡例

宿 旅館・民宿 品 お土産・木工製品
味 味わい所 他 その他
トイレ バス停 中山道

駐車料金は保存事業に活用されています

